

在宅におけるノーリフティングケアへの取り組み ～住宅型有料老人ホームからのアプローチ～



社会医療法人天神会 複合施設

こがケアアベニュー大石町
こがケアアベニュー縄手
こがラウンドケア大石町
こがヘルパーステーション大石町
こがデイサービス大石町
こがデイサービス縄手

社会医療法人 天神会
KOGA

2. ノーリフティングケア推進事業を取り組む前は

職員からの聞き取り調査の結果、指導方法が人によって違う等の意見があり、腰痛の訴えも多かった。その結果、令和4年度の事業目標を

- ①ショートムービーマニュアルの作成と活用
- ②ノーリフティングケアの推進

と決定して周知した。

スライディングボード、フレック
スボードの導入、自走用の車いす
を介助用に変更するためケアマネ
に依頼。

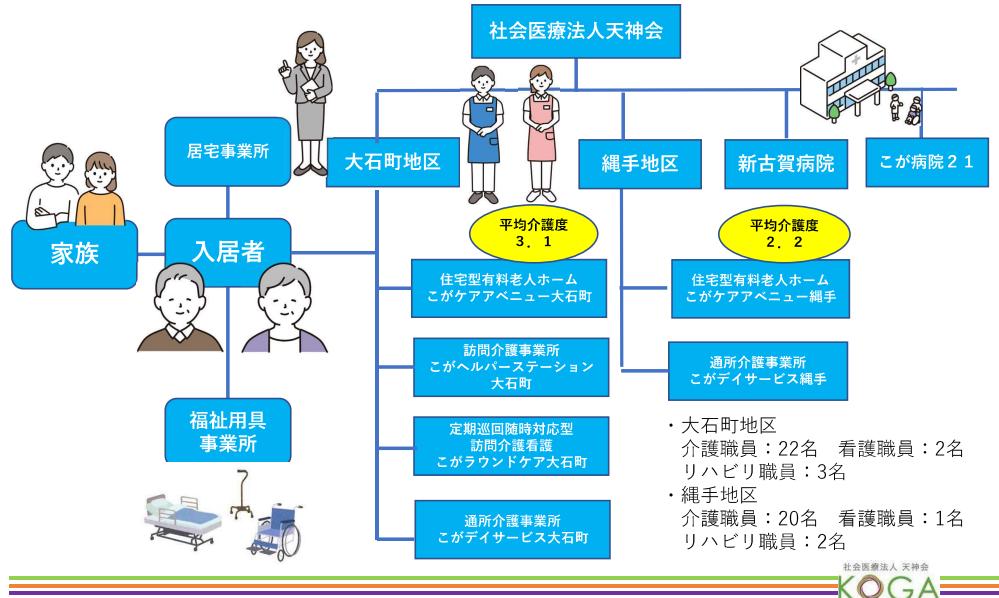


問題点

- ・動画マニュアルの進捗が進まない
- ・スライディングボードを活用している職員が少ない。
- ・高額な福祉用具を購入しても使用しない可能性が高いのでは？
- ・費用対効果は？



1. 入居者様に関わる相関図



3. 組織体制（委員会メンバー）



両施設の協力体制

施設は2つだが、2つで1つのような状態
2つの施設間での職員配置を変えてきたので情報共有はスムーズに行える。

4. 職員への教育体制

2つの施設でどのように研修をしたらよいか?

大石町地区と繩手地区で同じ研修内容の全体研修を行い、どちらかの地区に参加。



シフトの都合上、全体研修に参加できなかった職員は委員会メンバーが個別研修を実施した。



研修の出席の確認。全体研修に参加できなかった職員へは委員会メンバーが声掛けして個別研修を実施。その結果、研修への参加率はほぼ100%となった。

社会医療法人 天神会
KOGA

6. 移乗方法の統一と、指導方法の統一

先輩によって教え方が違う
入居者様の移乗福祉用具がわからない



大石町地区
対象者
36名

対象者の選出

繩手地区
対象者
24名

簡易移乗
チェックシート

簡易移乗方法	
このリストは、ベッドから椅子への移乗方法と車椅子への移乗方法の標準移乗方法を記載するものです。	
スタート	1. 1人目
はい	2. 2人目
はい	3. 3人目
はい	4. 4人目
はい	5. 5人目
はい	6. 6人目
はい	7. 7人目
はい	8. 8人目
はい	9. 9人目
はい	10. 10人目
はい	11. 11人目
はい	12. 12人目
はい	13. 13人目
はい	14. 14人目
はい	15. 15人目
はい	16. 16人目
はい	17. 17人目
はい	18. 18人目
はい	19. 19人目
はい	20. 20人目
はい	21. 21人目
はい	22. 22人目
はい	23. 23人目
はい	24. 24人目

動画マニュアル
の作成



移乗方法の統一と指導方法の統一を図るために動画マニュアルを作成した。

社会医療法人 天神会
KOGA

5. アセスメント及びプランニング（福祉用具の変更）

福祉用具を変更するためには各事業所でアセスメント

施設長、管理者、介護リーダー、リハ職員からケアマネに提案。

ケアマネから家族へ説明

ケアマネから福祉用具事業所へ連絡（デモ期間）

事業所側で福祉用具を決定しケアマネへ報告。

在宅サービスなので、福祉用具変更の際は経費が掛からないので提案がスムーズに行える。

担当者会議

利用契約の際に予め福祉用具導入・変更の説明を行っているので、ケアマネや家族への受け入れはほぼ問題なく変更が出来る

導入

福祉用具導入・変更のスピードが速い

ポイント

社会医療法人 天神会
KOGA

7. リスクの抽出から改善への流れ

先輩によって教え方が違う
入居者様の移乗福祉用具がわからない



大石町地区
対象者
36名

対象者の選出

繩手地区
対象者
24名

職員

改善
要望

改善

委員会
メンバー



施設長

報告
改善案

承認

- 委員会メンバーはリスクの抽出をした際にある程度の改善案も考えている。そのため報告と同時に改善案も出す。
- 改善へのスピードが速い
- 責任者、リーダーをはじめ、委員会のメンバーは現場目線で改善方法を模索しているため、現場職員の意見が通りやすい。

社会医療法人 天神会
KOGA

8. 問題点へのアプローチ

委員会でのミーティングを定期開催（月2回）し、職員からのリスクの抽出及び現在の取り組みの問題点を協議した。

問題点

- これまで研修で行ってきた身体の動かし方が身についていない。
- 委員会のメンバーだけではノーリフティングケアの周知が不十分。



解決策

- 腰に負担がかかる動作及びその改善できる身体の動かし方を動画を各事業所にて常にモニターにてリピート再生。
- 協力メンバーを選び出し、スライディングボード等の使用の声掛け、身体の動かし方の周知、職員からの改善の抽出を行ってもらう。



委員会
メンバー



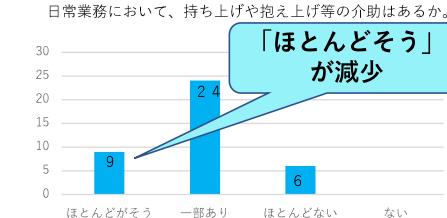
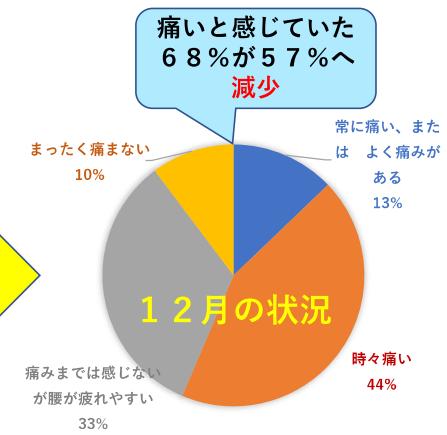
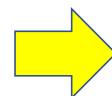
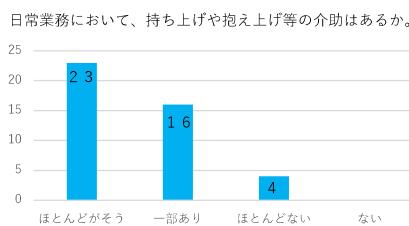
協力
メンバー

協力
メンバー

協力
メンバー

社会医療法人 天神会
KOGA

10. 腰痛調査



「ほとんどそう」
が減少

9. 福祉用具の導入

取組前

スライディングボード2種：5個
スライディングシート：2枚

取組前

スライディングボード3種：9個
スライディングシート：6枚
スタンディングリフト：1台

今後の導入検討

デイ浴室の構造上、天井走行リフト等が設置できないため引き続き福祉用具を検討

スライディングボードだけの移乗では限界があるためリフトを導入検討中



スライディングボード

タイヤに干渉しにくく差し込みやすい「つばさ」を導入

スタンディングリフト

デモを導入し約3名が対象となったため導入を決定。



購入ではなく、まずはレンタルから段階的に導入。
職員への浸透が出来れば購入へ。



社会医療法人 天神会
KOGA

11. まとめ及び今後の課題

まとめ

- 予め令和4年度の事業目標をノーリフティングケアと設定していたこともあり、職員の関心も高く周知は達成できた。
- 動画マニュアルにより、入居者様の移乗の際の福祉用具の統一、及び介助方法の統一の土台作りが出来た。
- 研修方法を全体研修と個別研修を行うことで、研修の参加率がほぼ100%とすることが出来た。



今後の課題及び目標

- 職員へのノーリフティングケアへの理解確認定期的なチェック
- 新入職員への教育計画の確立
- 法人内の介護施設だけでなく、看護部、リハビリ課への普及。
- 在宅におけるノーリフティングは、職員だけでなく、ケアマネを通して、自宅で介護をしている家族に対しても必要。まずは法人内の居宅事業所への普及を進める。

社会医療法人 天神会
KOGA